

□海外文献紹介□

胆汁中の非抱合型ビリルビンに
及ぼすエタノールの影響と、そ
のヒトの色素性結石の病因的意
義

Effect of Ethanol on Biliary Un-
conjugated Bilirubin and Its Im-
plication in Pigment Gallstone
Pathogenesis in Human: C. Di
Padova, et al. (Digestion 24: 112
~117, 1982)

疫学的調査では大酒家の肝硬変に
色素性胆石が合併しやすいと報告さ
れているが、その理由をよくわかっ
ていない。著者らの以前の家兎での
実験で、エタノール投与が胆汁中の
非抱合型ビリルビンを増加させたこ
とに基づいて、ヒトの肝胆汁への影
響を調べた。

コ系石で胆摘後の6名の患者に経

静脈的にエタノール(0.7 g/kg 体
重)を投与し、Tチューブを介して
採取した肝胆汁のビリルビン分画の
変化を検討した。対照としては生食
水を投与した。実験前の胆汁培養で
は、好気性および嫌気性ともに陰性
であった。

エタノール投与では肝胆汁中の総
ビリルビン量に変化はなかったが、
非抱合型ビリルビン分画の有意の上
昇がみられ、2時間後には最高とな
り総ビリルビンの平均 $2.37 \pm 0.3\%$
を占めた。生食水投与の場合は $0.65 \pm 0.14\%$ であった。この影響はエタ
ノール投与後6時間で消失した。同
時に測定した β -glucuronidase 活性
は、血中および胆汁中で変化なく、
また saturation index に対しても
影響はなかった。以上の結果、ヒト
でも家兎の実験と同じ変化が起こる

ことがわかった。

この変化は、 β -glucuronidase 活
性および胆汁脂質に影響せず投与中
止で自然に旧に復することから、恐
らく肝細胞膜の fragility を変化さ
すことにより肝細胞中のプールを減
少させ胆汁中への非抱合型ビリルビ
ン分泌を増加させるか、抱合に関与
する uridinphosphate glucuronyl-
transferase 活性を阻害するためと
考えられる。

結論として、急性のエタノール投
与が肝から胆汁中への非抱合型ビリ
ルビン分画の増加を来すことが明ら
かになり、アルコール摂取が色素性
胆石の形成を促す可能性を示唆して
いる。

(関東通信病院消化器内科

船富 亨 抄)